

富士大学研究者情報

経済学部経営法学科

准教授

伊藤 潔

いとう きよし

研究者基本情報

生 年	昭和41（1966）年
最終学歴	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程修了
取得学位	博士（スポーツ健康科学）、修士（スポーツ健康科学） 修士（英語学）
学位取得年月	平成28（2016）年3月、平成25（2013）年3月 平成23（2011）年3月
出身地	青森県
専門分野	コーチング科学、スポーツコーチング
担当科目	スポーツ指導論、人間科学と管理Ⅰ、学校保健、スポーツ社会学、トレーニング科学Ⅱ、専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ、体育実技（サッカー）、ソフトボール、集中講義：体育実技（ゴルフ・水泳・スキー・ポーリング）
所属学会	日本武道学会、日本体育学会、日本コーチング学会、東北体育・スポーツ学会
長期研究テーマ	柔道の技術・戦術の変容に伴う新たなコーチング手法の開発
短期研究テーマ	国際試合における柔道の組手戦術行動の解明
1年以内に発表予定の研究業績	Characteristic of <i>kumite</i> re-gripping techniques preceding scored throws in international-level judo competition. (Journal of Combat Sports and Martial Arts)

研究業績 (2018年3月末日現在)

【論文】

1	The transformation of technical-tactical behaviors for hand techniques used in attacking below the belt after the 2010 International Judo Federation rule revision.(共著) Arch Budo, 1, Jan. 2013; pp.1-6.
2	The method of expert evaluation of specific abilities to practice judo – proposition of Japanese top level university judo coaches. (共著) Arch Budo,3, Oct. 2013; pp.219-225.
3	Judo Kumi-te Pattern and Technique Effectiveness Shifts after the 2013 International Judo Federation Rule Revision. (共著) Arch Budo,10,Jan. 2014; pp.1-9.
4	Technical and Tactical Characteristic of Japanese High Level Women Kendo Players: Comparative Analysis. (共著) Arch Budo,10, Apr. 2014; pp.79-87.

5	「AHPを用いた柔道競技力の評価尺度の妥当性」 (共著) 『武道学研究』、47巻1号、2014年9月、pp.1-8.
6	Alterations in Kumite Techniques and the Effects on Score Rates following the 2013 International Judo Federation Rule Revision. (共著) Arch Budo,11, Apr. 2015; pp.87-92.
7	「2013年全日本選抜体重別選手権大会を対象とした柔道選手の競技力の評価指標の検討」 (共著)『千葉県体育学研究』、37巻、2015年10月、pp.17-23.
8	Effects of International Judo Federation 2013 Rule Revision on Kumite Strategies. (共著) 『富士大学紀要』、第50巻1号、2017年8月、pp.23-30.

【その他の執筆】

1	『月刊武道』(単著)ベースボール・マガジン社、1997年11月、p.148.
2	『アサンテサーナ ケニアで見つけた忘れ物』(単著)パコスジャパン、2000年10月、pp.77-79.
3	『新大陸の光と影』(単著)パコスジャパン、2003年12月、pp.112-115.
4	「IJF2010ルール改正に伴う帯下を攻撃する手技の技術、戦術変化の検証」(共著) 『柔道科学研究』、18巻、2013年3月、pp.8-12.
5	「IJF2013ルール改正に伴う組手の組替え戦術行動の有無にみる投げ技スコア比率の変化」 (単著)『柔道科学研究』、20巻、2015年12月、pp.1-4.
6	「平成28年台風10号被害と復旧・復興への対応」(共著)、岩泉町の中山間地域における 地域課題研究報告書、富士大学附属地域経済文化研究所、2017年3月、pp.3-21.
7	「スポーツイベントが地域社会に及ぼす影響－1998年長野オリンピック・パラリンピック 大会より－」(単著)『研究年報』、第23・24合併号、2017年3月、pp.32-39.
8	「柔道における組み手の戦術マニュアルの構築－組み方の優位性の解明－」(単著) 『星辰』、富士大学学術研究会報、第91号、2017年9月、pp.1-3.
9	Characteristics of kumite re-gripping techniques preceding scored throws in international -level judo competitions. (共著)、Proceedings of the 2017 International Budo Conference by the Japanese Academy of Budo, Sept. 2017, pp.180-181.
10	「柔道の組み方による投げ技の施技効力、投げ技の種類の違いについて」(単著) 『星辰』、富士大学学術研究会報、第92号、2018年3月、pp.4-7.
11	「グローバルに求められる柔道研究の動向を探る－日本人柔道研究者の立場から－」(単 著)『武道学研究』、第50巻3号、2018年3月、pp.219-224.

【学会発表】

1	「2010IJFルール改正に伴う手や腕で脚を掴む手技の技術・戦術行動の変容」 日本武道学会創立45周年記念大会、2012年9月
2	The Transformation of Technical-tactical Maneuvers for Hand Techniques Used in Attacking below the Belt after the 2010 International Judo Federation Rule Revision. ポス ター発表、2012 International Judo Symposium, Nov. 2012.
3	Effect of 2013 International Judo Federation Rule Revision on Throwing Techniques Tactical Effectiveness: Comparative Analysis. 2012 International Budo Conference by the Japanese Academy of Budo, Sep. 2013.

4	A study of validation of competitive abilities scale of judo competitors by using AHP and their competition results. 日本武道学会第46回大会、2013年9月
5	Effect of 2013 IJF Rule Revision on Judo Kumi-te Applications. 2013 International Judo Symposium, Nov. 2013.
6	Evaluation of Judo Competitor's specific Abilities by Japanese University Judo Coaches 、2013 International Judo Symposium, Nov. 2013.
7	「英語スピーチ不安を克服するメンタルスキルトレーニング効果の検証」 平成26年度言語人文学会大会、2014年8月
8	「2013IJFルール改正に伴う組手戦術行動にみる投技効力の変化について」 日本武道学会、2014年9月
9	「柔道選手における競技力の主観的評価尺度の検討」、日本武道学会、2014年9月
10	Alterations in Kumi-te Techniques and Scored Throws following 2013 International Judo Federation Rule Revision: Comparative Analysis between 2012 Grand Slam Tokyo and 2013 Grand Slam Paris2013. 2014 International Judo Symposium-Medical and Scientific Aspect. Dec. 2014.
11	「柔道コーチによる柔道競技力の評価重点項目の国際比較」、日本体育学会、2015年8月
12	「2013IJFルール改正に伴う組み手の組替え戦術行動にみる投技スコア取得率の変化」2015年度第3回柔道医科学研究会 ～2015International Judo Symposium～ 2015年12月
13	「2013IJFルール改正に伴う組手の「組替え戦術行動」にみる投技スコア取得率の変化 - 男女選手を対象として-」日本コーチング学会第27回大会（第9回日本体育学会体育方法専門領域研究会）2016年3月
14	「柔道の国際試合におけるスコア取得に至る組手戦術行動の解明」 日本体育学会、2016年8月
15	「大学柔道競技者による柔道競技力の主観的評価と試合結果との相関関係」 日本体育学会、2016年8月
16	「大学柔道競技者による柔道競技力の重点評価項目について」、日本武道学会、2016年9月
17	「柔道の国際試合における罰則適用が投げ技による先取ポイント取得に与える影響」 東北体育・スポーツ学会、2016年12月
18	「柔道競技における組手戦術行動パターンによる施技方向の判別」 日本コーチング学会第28回大会（第10回日本体育学会体育方法専門領域研究会） 2017年3月
19	Characteristics of kumite re-gripping techniques preceding scored throws in international -level judo competition. 2017 International Budo Conference&日本武道学会第50回記念大会、2017年9月
20	「柔道競技における組み手の戦術行動による投げ技効力の判別」 日本体育学会第68回大会、2017年9月

21	「柔道の組み手戦術行動による投げ技攻撃パターンの判別」 日本コーチング学会第29回大会（第11回日本体育学会体育方法専門領域研究会） 2018年3月
----	--

【教職歴】

1	富士大学経済学部 准教授 2014年4月～現在に至る
2	富士大学経済学部経営法学科長補佐 2015.4月～現在に至る

【スポーツ業績・自己】

1	全国高等学校総合体育大会柔道競技、73kg級出場、1984年8月
2	国民体育大会柔道競技東北ブロック大会 少年の部優勝、次鋒出場（5戦全勝）、1984年9月
3	国民体育大会柔道競技（奈良国体）、少年の部次鋒出場、1984年10月
4	全日本学生柔道体重別選手権大会、65kg級出場、1985年10月
5	全日本大学柔道体重別団体優勝大会、予選リーグにて全勝（3勝）、1986年6月
6	全日本大学柔道体重別選手権大会、65kg級ベスト8、1986年10月
7	国民体育大会柔道競技（沖縄国体）、成年の部次鋒出場、1987年10月
8	全日本学生柔道優勝大会出場、ベスト32、1988年6月
9	全日本学生柔道体重別選手権大会、65kg級ベスト8、1988年10月
10	全日本学生柔道連盟選抜海外遠征参加（オーストラリア連邦）、1989年3月
11	日本傳講道館柔道5段取得、2001年7月
12	全日本柔道連盟審判員B級審判員資格取得、2009年10月
13	全日本柔道連盟公認指導者資格Aライセンス取得、2012年4月

【スポーツ業績・指導】

1	全ケニア共和国体重別柔道選手権大会、65kg級、78kg級、100kg超級優勝、1990年5月
2	ケニア共和国柔道ナショナルコーチ就任、1990年6月
3	全ケニア共和国視覚障害者柔道選手権大会、73kg級優勝、1990年7月
4	全ケニア共和国体重別柔道選手権大会、60kg級、65kg級、100kg超級優勝、1991年6月
5	世界柔道選手権バルセロナ大会、ケニア共和国代表60kg級出場、1991年7月
6	East Central African柔道選手権大会（ケニア・ナイロビ開催）、ケニア共和国代表60kg級金メダル、65kg級銀メダル、100kg超級金メダル、1991年9月
7	All African Games柔道競技（エジプト・カイロ開催）、ケニア共和国代表60kg級出場、1991年10月
8	バルセロナオリンピック柔道競技、ケニア共和国代表100kg超級出場、1992年8月
9	東北学生柔道優勝大会2位、1996年5月
10	全日本学生柔道優勝大会ベスト32、1996年6月
11	東北学生柔道優勝大会2位、1997年5月
12	全日本学生柔道優勝大会ベスト32、1997年6月
13	東北学生柔道優勝大会2位、1998年5月
14	全日本学生柔道優勝大会ベスト32、1998年6月
15	東北学生柔道優勝大会2位、1999年5月

16	全日本学生柔道優勝大会出場、1999年6月
17	東北学生柔道体重別団体優勝大会1位、1999年10月
18	全日本学生柔道体重別団体優勝大会ベスト32、1999年11月
19	東北学生柔道優勝大会3位、2000年5月
20	全日本学生柔道優勝大会出場、2000年6月
21	東北学生柔道体重別団体優勝大会2位、2000年10月
22	全日本学生柔道体重別団体優勝大会ベスト32、2000年11月
23	東北学生柔道優勝大会2位、2001年5月
24	全日本学生柔道優勝大会出場、2001年6月
25	東北学生柔道優勝大会2位、2002年5月
26	全日本学生柔道優勝大会ベスト32、2002年6月
27	東北学生柔道体重別団体優勝大会2位、2002年10月
28	全日本学生柔道体重別団体優勝大会ベスト32、2002年11月
29	東北学生柔道優勝大会2位、2003年5月
30	全日本学生柔道優勝大会ベスト32、2003年6月
31	東北学生柔道体重別団体優勝大会3位、2003年10月
32	全日本学生柔道体重別団体優勝大会ベスト32、2003年11月
33	東北学生柔道優勝大会2位、2004年5月
34	全日本学生柔道優勝大会出場、2004年6月
35	東北学生柔道体重別団体優勝大会1位、2004年10月
36	全日本学生柔道体重別団体優勝大会ベスト32、2004年11月
37	東北学生柔道優勝大会1位、2005年5月
38	全日本学生柔道優勝大会出場、2005年6月
39	東北学生柔道体重別団体優勝大会2位、2005年10月
40	全日本学生柔道体重別団体優勝大会ベスト32、2005年11月
41	東北学生柔道優勝大会1位、2006年5月
42	全日本学生柔道優勝大会出場、2006年6月
43	東北学生柔道体重別団体優勝大会1位、2006年10月
44	全日本学生柔道体重別団体優勝大会ベスト16、2006年11月
45	東北学生柔道優勝大会1位、2007年5月
46	全日本学生柔道優勝大会ベスト32、2007年6月
47	東北学生柔道体重別団体優勝大会3位、2007年10月
48	全日本学生柔道体重別団体優勝大会出場、2007年11月
49	東北学生柔道優勝大会1位、2008年5月
50	全日本学生柔道優勝大会出場、2008年6月
51	東北学生柔道体重別団体優勝大会3位、2008年10月
52	全日本学生柔道体重別団体優勝大会出場、2008年11月
53	東北学生柔道優勝大会1位、2009年5月
54	全日本学生柔道優勝大会ベスト32、2009年6月

55	東北学生柔道体重別団体優勝大会3位、2009年10月
56	全日本学生柔道体重別団体優勝大会ベスト32、2009年11月
57	東北学生柔道優勝大会3位、2010年5月
58	全日本学生柔道優勝大会出場、2010年6月
59	東北学生柔道体重別団体優勝大会3位、2010年10月
60	全日本学生柔道体重別団体優勝大会ベスト32、2010年11月
61	東北学生柔道優勝大会3位、2011年5月
62	全日本学生柔道優勝大会出場、2011年6月
63	東北学生柔道体重別団体優勝大会3位、2011年10月
64	全日本学生柔道体重別団体優勝大会ベスト32、2011年11月
65	東北学生柔道優勝大会3位、2012年5月
66	全日本学生柔道優勝大会出場、2012年6月
67	東北学生柔道体重別団体優勝大会2位、2012年10月
68	全日本学生柔道体重別団体優勝大会ベスト32、2012年11月

【内外における公開講座等の講師】

1	「スポーツを通じての国際交流：ドミニカ共和国サントドミンゴ自治大学柔道部との交流を通じて」 岩手県青年海外協力隊を育てる会、エスポワールいわて、2014年10月
2	「スポーツ健康科学とは何か？」 岩手県立花巻南高等学校「健康科学」特別講座、2015年2月
3	「スポーツイベントが地域社会に及ぼす影響」、第32回富士大学花巻市民セミナー 花巻市生涯学園都市会館、2015年9月
4	模擬講義「スポーツ科学とは何か」、秋田県立羽後高等学校、対象：2年生、2015年11月
5	「スポーツイベントにおける社会的効果」、岩手県立花巻南高等学校特別講座「健康科学」2016年2月、対象：1, 2年生スポーツ健康科学学系（80名）
6	「スポーツ健康科学とは何か」、第2学年岩手5大学出前講義、2016年7月、会場：盛岡中央高等学校、対象：2学年生徒18名
7	「スポーツ健康科学とは何か」、第1、2学年岩手5大学出前講義 2016年11月、会場：岩手県立盛岡南高等学校、対象：1学年83名 2学年生徒46名、計129名
8	「スポーツ健康科学とは何か」、進路ガイダンスにおける大学・企業によるミニ講義 2016年11月、会場：青森県立浪岡高等学校、対象：2学年生徒18名
9	「スポーツ科学とは何か」、岩手5大学出前講義、2017年6月、会場：学校法人協和学院 水沢第一高等学校、対象：教員25名
10	「スポーツを科学する」、岩手5大学出前講義、2017年7月、会場：盛岡中央高等学校、対象：2年生26名
11	“Exploring trends of Judo research in globalization era-The viewpoint of a Japanese judo researcher”.Judo Specialist Subcommittee Meeting, 2017International Budo Conference、Sept,2017

12	「家庭で簡単に行えるストレッチング (1) (2)」、2017富士大学シニア・オープンカレッジ (高齢者公開講座)、2017年11月、富士大学
----	---

【社会的活動】

1	国際協力ケニア共和国スタディーツアーの総務としてツアー企画・実施・引率 岩手県青年海外協力隊を育てる会、2000年3月
2	国際協力ドミニカ共和国スタディーツアーの総務としてツアー企画・実施・引率 岩手県青年海外協力隊を育てる会、2003年9月
3	東北学生柔道連盟理事、2008年4月～2012年3月

【受賞歴】

1	岩手県青年海外協力隊を育てる会功労賞、2014年10月
2	日本武道学会優秀論文賞、2016年9月